

押切用水堰って どんな堰？



③魚道

①洪水吐（油圧式自動転倒ゲート）

④取水ゲート

②土砂吐（鋼製ローラーゲート）

押切用水堰のあらまし

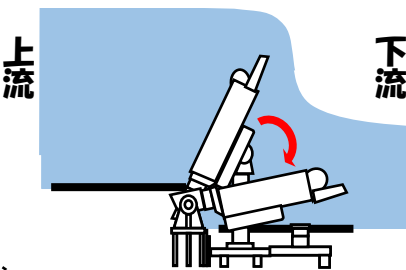
旧押切用水堰は、昭和8年に永野川河川改修事業により造成されました。しかし、堤防に対して斜めに設置されたコンクリート固定堰や取水樋管は河川構造令に適していない状態にあり、洪水時に河川断面が阻害されることによる溢水被害や堤防決壊等の災害発生が懸念されていました。また、造成後85年以上が経過し、堰自体も著しく老朽化していました。

そのため、適切な農業用水の確保と維持管理の省力化、及び治水上の安全確保を目的に、平成29(2017)年度から令和4(2022)年度にかけて農業用河川工作物応急対策事業を実施し、改修工事により新たな堰に生まれ変わりました。

改修前（平成29年）の押切用水堰



油圧式自動転倒ゲート



河川をせき止めて水位を上げ、取水します。大雨などで水位が上昇し、一定以上の高さになると自動で堰が倒伏し、水位を下げます。

魚道とは

魚が遡上できるように生態系に配慮した施設です。押切用水堰では、ハーフコーン型の魚道が設置されています。

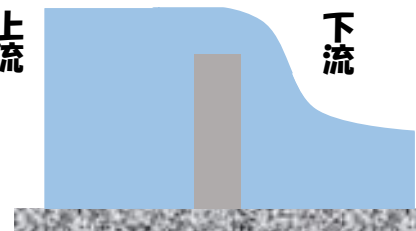
魚道モニタリング調査

（実施日：令和4年7月26～29日）



モニタリング調査は3昼夜で実施し、アユやコイ、シマドジョウなど9種107個体の遡上が確認されました。

(改修前)コンクリート固定堰



水中にコンクリート構造物を設け、水をせき止めて取水します。流量に合わせた制御ができなため氾濫の危険性があります。

